

これからの農家住宅提案報告

コテージむらをモデルに、新しい農家住宅を模索するべく、地元の若手農家や建築士、地域づくりに取り組む専門家などによる「これからの農家住宅提案検討委員会」をたちあげました。3回にわたって検討委員会を開催し、新しいカタチの農家住宅を、多角的な視点から考察しました。

目的

雫石町南畑地区「コテージむら」をモデルに、農村の生活において重要な位置を占める農家住宅についての検討や提案等をしていくことによって、農家住宅を新たな魅力あるものとして位置付けるとともに、農業・農家のイメージアップ、農業後継者の確保、若年層の移住促進等につなげることを目的としています。

検討会の様子

第1回

第1回目の検討会は、どんな暮らしや住まいなら移住者が集まるか、絵を描きながら自由にイメージを膨らませてきました。たとえば、元来百姓は複数の商いを兼業していたことから、ITやテレワークの仕事をしながら農業をする「現代版の百姓」という発想。また、いきなり移住して農業を始めるのはハードルが高いので、段階を踏むために、“シェア”を取り入れるという案があがりました。



第2回

農家住宅といっても、農業で生計をたてる大規模なものと、自家菜園など小規模なものでは、求められる住宅の形も異なるため、2種のパターンで検討。



大きな土間と趣味の部屋で、幸せを感じられる農家暮らし

A photograph showing three men in business attire (suits and a button-down shirt) gathered around a large, colorful project plan or calendar mounted on a wall. The man on the left, wearing a grey suit, is looking at the plan. The man in the center, wearing a dark shirt, is pointing at the plan with a long stick. The man on the right, wearing a blue suit, is also looking at the plan. The plan itself is a large sheet of paper with various colored sections (yellow, green, blue) and contains text, diagrams, and small illustrations. A clock is visible on the wall in the background.



農作業をすると衣類に土や雑草が付きます。そのまま家に入ると室内が汚れてしまうので、大きな土間を設け、2層式の洗濯機やシャワールームに直行できる間取にするなど農家ならではの意見がありました。

他にも土間の奥には、夫婦それぞれが趣味や遊びを楽しむための部屋があります。スイーツやクラフト製品をつかって、小さなショップを開いてもよいでしょう。

岩手では、12～3月は雪のため農作業がほとんどできません。こうした趣味の部屋があれば、冬の時間を充実させられます。

そしてもうひとつの案は「シンプルプラン」

“シェア”でコストをおさえ、若者でも農業を始めやすくする

こちらの班は、1戸というよりは、「コテージむら」のコミュニティ全体の世界感から考えました。



農業に新規参入する移住者、とくに若者をむかえるためには、初期投資をできるだけ少なくさせる必要があります。そこで、個別の家や畑はコンパクトにし、その分“シェア”するものを充実させます。

それぞれの家は10坪くらいのコンパクトなもので、つくりもシンプル。小屋に近いものをイメージしています。暮らしていくなかで同伴者や家族ができれば、増築。

「コテージむら」の中心部には、共用の倉庫やワークスペース、キッチンなどを据え、住人同士でルールを決めて活用。共用部ではさまざまなコミュニケーションが生まれるはずです。

こうしたシェアの仕組みがあれば、IT系など比較的場所を選ばない仕事に就く人が、農業を副業にしながら暮らすこともできます。また、移住までいかなくとも、短期間の滞在で利用することも可能。

こうして検討が行われ2棟の案が完成しました。



新しい農家住宅がなくなり、村となる。

シェアヴィレッジ構想



「シンプルプラン」と「ガッツリプラン」の農家住宅について、それぞれが「シェア」という考え方の元に一つの村（ヴィレッジ）として共存する可能性について示されました。「シンプルプラン」は住宅機能は最小限にする一方で、各区画の中心的な場所に共用施設をつくり、大型の台所（セントラルキッチン）、倉庫、農業機械置き場などを住民がシェアできるようにします。また、共用施設では研修スクールなどのサポート機能も提供します。これにより農業を始めるための初期コストを抑えることができ、若年層などの参入障壁の打開にもつなげようとする構想です。

また、「ガッツリプラン」の農家住宅との共存も想定されます。「ガッツリプラン」の広い畑の農繁期には共用施設を通して「シンプルプラン」の兼業住民が短期就農や手伝いをしたり、両者が共同で営農する農地を設定し、共同農地での収穫物は共用施設で加工・販売することで新たな商品開発や雇用創出にも繋げられる可能性が考えられます。



がつりプラン 日本一暖かい農家住宅



春夏秋冬、農家の暮らしは季節とともに移り変わります。春・秋は農業をしながらも快適に暮らせる充実した設備と使いやすい間取り。

お客さんが来たら広い土間でおちやつこを飲みながら、自家製の漬物を食べ比べ。休みの日には駐車場奥の秘密の部屋で、スノーボードを磨いたり、毛糸でクラフトを作ったり、一年を通して農業はもちろん趣味や副業も充実した暮らしを提供します。

昔ながらの薪ストーブ、土間や蔵の機能を受け継ぎつつ、最新の高断熱素材を組み合わせることで、冬の岩手の寒さをものともしない、日本一暖かい農家住宅ができました。

point 1

お茶飲み空間 「Domako」
駐車場から家に入ると広い「土間」がリビングとシャワー室に続いていきます。畑で汚れたまま家に入っても大丈夫な間取りは農家視点からの便利ポイント。近所さん方が集まる「おちやつこ」空間としても活躍。

point 2

自家用車2台分の全天候型駐車場 「Hisashi」
収穫した野菜を軽トラに積んで帰宅しても、天気を気にせずそのまま室内に運び入れることが可能な大きな庇（ひさし）に守られた駐車場です。

point 3

農閑期には趣味に没頭、隠れ家的独立空間 「Himedono」
駐車場の奥には2つの独立した小部屋を用意。夫婦や子どもがそれぞれ「姫」と「殿」の秘密基地として、ウインタースポーツの手入れをしたり、庭で飼っている羊やアルパカの毛でクラフトを作ったり、自由で楽しい使い方を。

point 4

リビングダイニング土間キッチン 「TDDK」
Domakoからつながる広いリビング・ダイニング・キッチン。薪ストーブと床暖房に高断熱の住宅設計で、岩手の冬も暖かく、夏は涼しく過ごすことを実現。家族が増えても、歳を重ねても、安全に快適な暮らしを妥協しない農家住宅を。

point 5

プライバシーに配慮した応接室と来客用玄関 「Mossu」
来客用正面玄関のホールは空間として仕切られていて、リビングと応接室のどちらにも案内できるような間取りにすることで、プライバシーな空間・時間を守りながら家族が生活できるように配慮。

point 6

家族用の部屋は3部屋、子どもの出入りがわかる配置
家族が増えても目が届くよう、子ども部屋は家族用玄関から夫婦の寝室前を必ず通る動線に。共有する空間とプライバシーな空間を分けつつも配置を工夫することで、暮らしやすく安心な農家住宅を。

point 7

小さな畑・家畜小屋
II「アルパカの家」
敷地内には自家消費・加工用の小さな畑と、家畜用の小屋を設置。羊・ヤギ・アルパカなど、共存する動物たちから素材を頂いて、加工品や趣味に活用する豊かな暮らしを。

point 8

農機具に侵食されないための農業機械小屋を設置
営農に伴う様々な農機具や農業機械に暮らしの空間を埋められてしまわないよう、敷地内に専用の小屋を設置。トラクターや乾燥・袋詰の機械なども置けるだけのスペースを確保。

point 9

住宅正面にも畑をおいて、暮らしに近い農業空間を
リビングから見える正面にも畑や花壇として使える農業スペースを確保。自家消費用の野菜やハーブを育てるなど、稼ぐための農業に特化してしまうことなく、日常生活の中に農的暮らしを取り入れて豊かな生活を。

point 10

自家用車や農業機械の出入りを妨げない敷地通路。
農業住宅としての機能を最大限に高めた上で、農家目線からの使いやすいさのこだわりを追求。自家用車と農業機械の動線を考え、敷地内にも広くスペースを確保。来客や親戚の車を臨時で停めたり、冬場は一時的な雪置き場としても使えるような配置に。

シンプルプラン ハイブリッドファーマーズ



農家暮らしに興味はあっても、最初の一步を踏み出すのはなかなか大変なものです。そこで、コンパクトでシンプルな農家住宅はいかがでしょう。

住宅の機能は最小限（でも必要十分）のワンルームから始める兼業・副業農家暮らし。リモートワークにも不自由しない高速インターネット回線完備で、クリエイティブで新しい働き方を応援します。

初期コストを抑えた移住で小さく無理なく農業を始めてみて、さらに本格的に就農したくなったら「ガッツリプラン」にステップアップするのも一つの方法です。



point 1 上部ロフト付きの土間を玄関兼作業場として。

最小限の生活でも家の中で様々な作業ができるように小さな土間を設置。住宅内には基本的に収納スペースも設置しないことから、多目的に活用可能な土間と上部ロフトを季節を問わず快適な室内作業場所として活用。

point 2 ワンルームだからこそ自然エネルギーで快適に。

リビングには薪ストーブを設置。暮らす空間が小さいからこそ、太陽光や風力など、様々な自然エネルギーを少しずつでも取り入れながら、無駄のない暮らしを実現することが可能に。

point 3 水回りは北側の壁に沿ってまとめ、空間を最大化。

ミニキッチン・トイレ・シャワー室（浴室なし）という最小限の構成を住宅の長辺に沿って縦列配置。土間からリビングまでのワンルームを広く長く確保し、採光を兼ねた窓も玄関から入って最も奥に設置することで、明るく広く使えるワンルームの住宅に。

point 4 小さな畑を家の脇に。農的な暮らしをすぐそばで。

シンプルプランでは敷地内の住宅以外のスペースで農業を営むケースと、敷地内には4棟のシンプル住宅を建てて敷地外で農地を準備するケースを想定。後者の場合でも、家に隣接した自家消費用の小さな畑を設置することで、日常生活に近い場所でも農的な暮らしを感じられるような空間に。

point 5 ミニマルな住宅だからこそ、敷地内に併設が可能に。

最小限の農業住宅として、想定した敷地内に同様のコンセプトの住宅を3棟まで併設可能。家族が増えた場合の別棟としての増設や、敷地を分けてシンプルプランで4世帯が住むことも。敷地も住宅も最小限にすることで、コストも抑えながら農的な暮らしを始められるというスタートアップの敷居を下げる効果も。